

氏 名	森田 祐介
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第569号
学位授与年月日	令和3年3月15日
審 査 委 員	主査 教授 鈴木 律朗
	副査 教授 紫藤 治
	副査 臨床教授 公受 伸之

論文審査の結果の要旨

トルバプタンは選択的バゾプレシンV2受容体拮抗薬であるが、近年心不全に対する利尿薬として注目されつつある。従来、心不全に対する利尿薬はループ利尿薬が多く使用されていたが、ループ利尿薬使用による腎機能障害や電解質異常が予後悪化に関連している可能性が報告されている。また、現在の日本の高齢化において、高齢者の心不全患者が増加し、90歳以上の超高齢者の急性非代償性心不全(ADHF)での入院も増加してきている。申請者は、90歳以上のADHF患者においてトルバプタンを投与することが、90歳未満と比較した場合の有効性と安全性に関して検討した。その結果、90歳以上のADHF患者において従来のループ利尿薬を中心とした治療にトルバプタンを追加すると、48時間までの尿量に関して90歳未満と同様の利尿効果がみられ、心不全の改善を示す体重減少も同様の割合であったことを確認した。また、トルバプタン投与に関連した有害事象を、高Na血症と腎機能障害の発現で検討したが、90歳以上においても90歳未満と比較して有害事象を増加させないことを確認した。本研究は、90歳以上の超高齢ADHF患者においても、90歳未満群と比較してトルバプタンは有害事象を増加させることなく、尿量増加と体重減少という点で有効性を示した。高齢化社会において独自性・新規性を有する学術的に価値のある研究である。